

新しい福島県農林水産業振興計画策定に係る

地方意見交換会結果概要

1 地方意見交換会の目的

新しい福島県農林水産業振興計画の策定に向け、県内9カ所で様々な立場の農林漁業者等の方々から意見を聴取し、新しい計画の策定に反映させるために開催した。

2 開催地・日時等

ブロック	日時・場所・意見交換者	各審議会からの出席委員
県北	〔日時〕 令和2年11月6日（金）13:30～15:00 〔会場〕 県庁北庁舎4階 災害対策県北地方本部室 〔意見交換者〕 ・渡辺 晴光（渡辺果樹園代表） ・佐藤 正仁（サトーファーム代表） ・齋藤 祐一（伊達地方農業士会会長） ・菅野 まゆみ（安達地方指導農業士会会長） ・佐藤 博（県北森林組合指導課長） ・熊谷 耕一（ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会理事長）	農業振興審議会 奥平 貢市 委員
県中	〔日時〕 令和2年10月30日（金）13:30～15:00 〔会場〕 郡山合同庁舎仮設庁舎 第1会議室 〔意見交換者〕 ・設楽 正恵（複合経営） ・佐久間 俊幸（株式会社きくた農園 代表取締役） ・富樫 喜重郎（JA福島さくらたむら地区和牛繁殖部会都路支部支部長） ・小野塚 昇一（株式会社オノツカ 代表取締役） ・渡辺 俊史（有限会社M&Aふぁーむ・わたなべ 取締役） ・郷 美枝子（郷隆果樹園）	農業振興審議会 中田 幸治 委員
県南	〔日時〕 令和2年11月13日（金）13:30～15:00 〔会場〕 白河合同庁舎大会議室 〔意見交換者〕 ・薄井 惣吉（農事組合法人入方ファーム 代表理事） ・滝田 国男（株式会社吉野家ファーム福島 専務取締役） ・鈴木 禎一（矢吹原土地改良区 事務局長） ・岡崎 良子（株式会社岡崎農園 取締役） ・小泉 美峰（奥久慈流域林業活性化センター 事務局長） ・清水 大翼（ファームつばさ 代表）	森林審議会 荒川 敦郎 委員
会津	〔日時〕 令和2年11月19日（木）14:00～15:30 〔会場〕 会津若松市コミュニティ施設ピカリンホール 〔意見交換者〕 ・山口 比佐男（株式会社ファーム・山口 代表取締役） ・金田 邦広（青年農業士） ・室井 陽香（個人経営） ・山田 宗輝（有限会社やまだズ 取締役） ・福田 祐子（指導農業士） ・田崎 眞平（指導林家） ・三原 大昌（株式会社リオン・ドールコーポレーション 商品部農産部長）	農業振興審議会 森林審議会 齋藤 澄子 委員

ブロック	日時・場所・意見交換者	各審議会からの出席委員
南会津	<p>〔日時〕 令和2年11月10日(火) 13:30～15:00</p> <p>〔会場〕 南会津町役場本庁舎3階大会議室</p> <p>〔意見交換者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯田 弘信 (株式会社みなみあいづ 取締役営業副本部長) ・三瓶 やえ (ただみ農家の嫁倶楽部 代表) ・星 希 (認定農業者) ・月田 洋子 (指導農業者) ・森 秀一 (鶉巣ほ場整備準備組合 組合長) ・松澤 瞬 (特定非営利活動法人みなみあいづ森林ネットワーク) 	<p>農業振興審議会 横田 純子 委員</p>
相双	<p>〔日時〕 令和2年11月18日(水) 13:30～15:00</p> <p>〔会場〕 福島県環境創造センター環境放射線センター 大会議室</p> <p>〔意見交換者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿部 勝行 (千葉製材所 総務部長) ・遠藤 亜美 (家族経営) ・遠藤 雄夫 (有限会社遠藤さのこ園 取締役) ・佐久間 哲次 (株式会社佐久間牧場 専務取締役) ・清水 裕香里 (特定非営利活動法人Jin 理事(代表)) ・西 一信 (農事組合法人うきた夢ファーム 代表理事) 	<p>農業振興審議会 千枝 浩美 委員</p>
いわき	<p>〔日時〕 令和2年11月12日(木) 13:30～15:30</p> <p>〔会場〕 いわき合同庁舎4階 大会議室</p> <p>〔意見交換者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱崎 寿正 (有限会社東農園 代表、いわきコメの会 副会長) ・助川 弥生 (農事組合法人菊田の郷 助川農園 理事) ・草野 富夫 (JA福島さくらいわき梨部会 部会長) ・四家 麻未 (NPO法人みどりの杜福祉会いわきワイナリーマネージャー) ・木田 章一 (NPO法人いわきの森に親しむ会 理事長) ・中野 光 (遠野興産株式会社 代表取締役) 	<p>森林審議会 緑川 平壽 委員</p>
海面	<p>〔日時〕 令和2年11月17日(火) 13:30～15:30</p> <p>〔会場〕 いわき合同庁舎南分庁舎3階 大会議室</p> <p>〔意見交換者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小沼 幸誠 (福島県水産市場連合会 副会長理事) ・加澤 喜一郎 (福島県秋刀魚対策協議会 会長) ・今野 智光 (相馬双葉漁業協同組合 試験操業検討委員会会長) ・高橋 一泰 (福島県漁業協同組合青壮年部連絡協議会 会長) ・高橋 通 (福島県底曳網漁業組合連合会 会長) ・田崎 由子 (福島県消費者団体連絡協議会 事務局長) 	
内水面	<p>〔日時〕 令和2年11月5日(木) 13:30～15:30</p> <p>〔会場〕 福島県内水面水産試験場2階 会議室</p> <p>〔意見交換者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊田 純幸 (県南鯉養殖漁業協同組合 代表理事組合長) ・佐藤 俊吉 (有限会社吾妻山養魚場 代表取締役) ・堀江 清志 (阿武隈川漁業協同組合 事務局長) ・眞壁 純一 (阿賀川非出資漁業協同組合 代表理事組合長) ・松本 秀夫 (福島県鮭増殖協会 会長) ・目黒 善一 (檜原漁業協同組合 代表理事組合長) 	<p>水産業振興審議会 佐川 泉 委員</p>

3 主な意見（新しい計画の各節ごとに意見を取りまとめ）

(1) 東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化

○農林水産業に共通する意見

- ・放射線のモニタリング検査を長年やってきたことで、消費者から安全性について信頼を得てきた。引き続き、モニタリング検査は実施していくことが大切だと考える。
- ・「復興」という言葉が飛び交っているが、補助金に頼らず、早く自分の力で経営していきたい。

○農業に関する意見

- ・営農再開する地域では、施設・機械整備などの支援は生産者の意欲向上のためにも重要と感じている。また、労働力確保に係る支援も併せて体制づくりが必要と感じている。
- ・東北地方の他県については、震災の前後で農業産出額が伸びているが、本県は低位に留まっている。原発事故の影響が大きく、今も風評被害は続いていると感じる。

○森林・林業に関する意見

- ・きのこや山菜の毎年のモニタリング検査がとても負担になっている。何年も放射性物質が検出されていないところは簡素化に向けた取組をお願いしたい。
- ・震災から10年が経過するが、広葉樹の整備が進んでいない。長期間整備がなされず高齢化した広葉樹は更新が出来なくなってしまう。

○水産業に関する意見

- ・内水面では国の出荷制限指示により、未だ事業休止を余儀なくされている漁協が存在し、出荷制限が指示されていなくても風評被害や遊漁者の減少により経営に支障をきたしている漁協もある。国や県が風評対策をしっかりと行ってほしい。

(2) 多様な担い手の確保・育成

○農林水産業に共通する意見

- ・担い手確保のためには収益性の高い経営基盤が必要。
- ・60歳～80歳代の人材が活躍すると、若い世代も頑張れると思う。そうした人材が活躍出来るシステムを進めていってほしい。
- ・意欲とやりがいを持って、職業として選択されるような持続可能な農林水産業を目指していくことが必要。
- ・これまで、3人で1か月かかった林地測定関係業務がドローンの導入により4、5日で終わるようになった。地味なイメージからデジタル化を推進して若い人に目を向けてもらう手段としたい。

○農業に関する意見

- ・担い手として儲かっている農業のモデルをアピールすることで、新規就農者がもっと増えてくるのではないかと思う。
- ・新規就農には初期投資のハードルが高いため、土地や機械を貸してもらえるマッチングのシステムが必要である。
- ・高齢化が進み続ける中で、高齢者の雇用の必要性を感じる。就農フェアでは若年だけでなく定年間際の方の相談も多いため、定年後の受け皿となれる環境作りも必要ではないか。
- ・新規就農者確保のため、人とのつながりやコミュニティ、体験ツアー等により徐々に地域に入れるような環境作りが必要。福島らしさがある県独自の施策を期待する。
- ・新規就農では、ハウスを何棟、何反歩作って、〇〇を売れば収入はいくらで、生活していけま

すよ、というモデルケースを多く作り、そういう具体的なケースを示せばイメージしやすいと思う。

○森林・林業に関する意見

- ・若手の林業就業者も結構いるそうだが、長続きせず離職者も多い。労働環境が問題と思われるので、何らかの対策を講じてもらいたい。
- ・山林をもっと魅力ある職場として、担い手を増やしていくためには、あらゆる手段を使って山にお金を入れて、人を入れていく必要がある。

○水産業に関する意見

- ・若手の漁業者の育成が最重要課題。
- ・担い手育成の施策（若手の洋上での研修）をお願いしたい。

(3) 生産基盤の確保・整備と試験研究の推進

○農業に関する意見

- ・水田の大区画化整備を実施し、次の世代が取り組みやすい基盤を整備することが大切。整備と共に、機械化も進めことで若い人たちが興味を示してくれるのではないか。
- ・福島県は他県に比べて育種が進んでいないと思うので、そこにもう少し予算をかけて、生産者にこういうものを作ってほしいと言うくらいになれば、生産者側も活力が湧いてくるのではないかと思う。（その他、オリジナル品種開発に係る意見複数）
- ・農地を荒らさないためにも土地改良事業、基盤整備事業は必要と感じる。整備が遅れているところは、担い手が出てこなくて次に繋ぐことができない。

○森林・林業に関する意見

- ・今植えた木は10年後では使い物にならない。林業分野では、数十年先を見据えた計画を立ててもらいたい。

○水産業に関する意見

- ・内水面の増養殖業者に対して、養殖機材や設備への支援（補助事業）がほしい。

(4) 需要を創出する流通・販売戦略の実践

○農林水産業に共通する意見

- ・独自のアンケート調査（消費者対象）では、放射能のある程度リスクは、ほかのリスクと同じように変わらないから受け入れる、という意識の変化がみられる。

○農業に関する意見

- ・もうかる農業のためには販売戦略が大事。県のふくしまプライド販売促進事業により新規顧客開拓のきっかけが出来た。IT販売戦略の支援も助かる。
- ・6次化は簡単ではなく、新規参入は大変。本業の生産にしっかり取り組み、売れる商品作りが必要である。
- ・行政やJAとの共同のイベントも開催していきたい。お互いどんどん企画提案し、一緒に会津地域の将来の農業を活性化していきたい。
- ・新たに飼料用米をやる場合に、自ら助成金申請の資料を作った取引先まで探してくるという作業はなかなか難しい。複数年契約の加算も、複数年契約はできないという取引先もある。

○森林・林業に関する意見

- ・県内の林業木材業を衰退させないために、地域の小規模林業・木材業同士が連携した組織を各

地に増やして行ってほしい。

- ・伐期を迎えた大径材が売れない、使えない状況にある。木造利用を増やす取組を促進してほしい。
- ・菌床のおが粉については、県外の秋田、山形、岩手のものを使用している。放射能の数値というよりも消費者のニーズとして県産材は取引の対象とならない。

○水産業に関する意見

- ・内水面では遊漁者のニーズに合わせた漁協の遊漁事業や中間育成業者の放流事業を展開していくため、管理河川や河川釣り堀等の取組を推進してほしい。
- ・いわきで「さかなの日」を設定。県でも連携または独自の取組をお願いしたい。

(5) 戦略的な生産活動の展開

○農業に関する意見

- ・果樹の病害対策を早めをお願いしたい。
- ・酪農家の廃業率は原発事故の影響などにより、震災以降、福島県が東北で1番高くなっている。省力化のためにロボット搾乳機をはじめとした ICT 機器を導入している。

○森林・林業に関する意見

- ・林業が衰退すれば農業が衰退し、地域全体が衰退すると思っている。森林の保存ではなく、森林の循環利用すなわち木を使いながら切っていく計画が必要と考える。
- ・しいたけの栽培に使用するおが屑の原料が県産のものでない。他県産のおが屑を使用して作ったしいたけを福島県産とは胸を張って言えない。

○水産業に関する意見

- ・養殖物の流通が増加。振興計画に「育てる漁業」を十分に盛り込んでほしい。
- ・県全体で水揚げを増やす必要がある。
- ・浜通り河川ではサケ増殖事業、会津河川ではアユ放流事業について支援を継続してほしい。
- ・食用コイ養殖に対する風評対策や担い手確保の取組を進めてほしい。

(6) 活力と魅力ある農山漁村の創生

○農林水産業に共通する意見

- ・学校教育で農林水産業を教えるなど福島県ならではの意識醸成を図る必要がある。
- ・グリーン・ツーリズムは、都会の方に地域のことに知っていただく良い取組だと思うが、今は少し中断されているので、コロナ禍でも対策を講じながら進められると良いと思う。

○農業に関する意見

- ・農地の多面的機能の重要性を住民にしっかりと認識してもらえるような働きかけが必要と感じる。
- ・山間部では鳥獣と共同で生活しているような状態で、鳥獣害対策を施したほ場でしか作物を栽培できない。
- ・6次化について、多額の補助金を使ったものの軌道に乗せられず途中で終わるケースを色々聞くが、補助金を出した後の報告や状況把握をもっとしなくてはいけないのではないかと思う。

○森林・林業に関する意見

- ・市町村が森林管理を委ねられても林務担当はおらず対応は難しい。民有林の管理ができなくなるのではと考えている。

- ・森林を活かした自然体験、環境教育、木育、森育が将来の森林・林業の発展に重要であるため、森林環境税を活用するなどして、教育施設整備を支援してほしい。
- ・森林整備をしてアウトドア施設を作れば健康増進にも役立ち、近くにバーベキュー場等もあれば、1日居れて体力づくりも出来る。

○水産業に関する意見

- ・内水面漁協は地元の観光産業との連携や子どもたちへの環境教育といった多面的な機能を持つため、経営体というよりは多面的な機能を有する環境保護団体という視点で国や県で支援してほしい。
- ・カワウ対策について、これまでの取組の効果が感じられない。カワウによる被害対策を継続し、適正な状態にしてほしい。

(7) その他(「基本目標(仮)もうかる農林水産業の実現」への全意見)

○肯定的な意見

- ・もうかる農業は必要。子供たちがもうかる農業をしている人の姿を見て、後継者が育つ。最初は補助をもらっても、経営が確立して納税でお返しするサイクルが必要だと思う。
- ・もうかることは一番重要だが、後継者育成、人材育成などの課題の部分も重要。
- ・「もうかる」は悪い言葉ではないと思う。「もうかる」は、みんなの力を合わせてもうかる土壌をつくろう、それをみんなでやるぞ、という福島県の気持ちだと個人的には思っている。
- ・「もうかる」に賛成。若手の漁業者の育成が最重要課題。
- ・施策的な裏付けを持って県の10年後の姿として「もうかる農業」を前面に出すことに賛同。
- ・「もうかる」はわかりやすい表現で良い。
- ・「もうかる」は露骨すぎるということもあるが分かりやすい。そのままでもよいと思う。
- ・これからの農業は各個人では生き残れない。「もうかる」は当然のことであり、しっかりとした経営をしていくことが大事になる。したがって、「もうかる」はあってもよい。
- ・良いと思う。畜産は365日休みがない。儲かれば酪農ヘルパーをお願いすることもでき、休みも取れるようになる。「もうかる」さらに「休める」経営が理想。
- ・産業、職業としてももうかる必要がある。積極的に発信すべき。

○否定的な意見

- ・「もうかる」に違和感。「明るい」「豊かな」はどうか。
- ・「もうかる農業」の表現より、もうかるだけではなく、他の仕事よりも農業でよかったと思えるようなスローガンが良いと思う。
- ・「もうかる」よりも、夢のあるスローガンが良い。
- ・「もうかる」にはポジティブ、ネガティブの二面性があり、山間部でもうからなくても従事している人もいる。「安定した」など二面性のない表現の方が良いのではないか。
- ・スローガンの「もうかる」は露骨すぎる。継続、持続可能などが良いのではないか。

4 意見一覧

(1) 東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化

No	地域	発言者	意見等	区分
1	県中	意見交換者	放射線物質のモニタリング検査を長年やってきたことで、消費者からも、安全性の信頼を受けているので、引き続きモニタリング検査を実施することが大事だと思う。	共通
2	相双	意見交換者	「復興」という言葉が良く飛び交っているが、補助金に頼らず、早く自分の力で経営をしていきたいと思っている。	共通
3	相双	審議会委員	原発事故の影響を払しょくするために安全性を確保し、消費者の信頼を得ることが重要。	共通
4	県中	意見交換者	営農再開する地域では、施設・機械整備などの支援は生産者の意欲向上のためにも重要と感じている。また、労働力確保に係る支援も併せて体制づくりが必要と感じている。	農
5	県中	意見交換者	都路地区の営農再開を進めるうえでは、今後も生産体制への支援が必要である。	農
6	相双	審議会委員	東北の他地域では東日本大震災以前より農業において高い水準まで伸びてきているが、福島県では80%程度にとどまっており、原発事故の影響が大きく、今も風評被害が続いていると感じる。	農
7	県中	意見交換者	個人の森林所有者では、森林再生事業なら伐採してもいいという人が多いので、森林再生事業の継続をお願いしたい。	林
8	県中	意見交換者	木材の風評被害については、最近ほとんどないと思っている。	林
9	県北	意見交換者	森林組合では、森林を間伐して、間伐材を市場で販売して代金を支払っている。900haぐらい請け負っているが全体の数%程度。このように所有者に代金を返せるように進めていきたい。	林
10	南会津	意見交換者	きのこや山菜の毎年のモニタリングがとても負担になっている。何年も検出されていないところは簡素化に向けた取組をお願いしたい。	林
11	相双	意見交換者	東京電力からは、県内の木材の流通が始まっているとの理由で掛かり増し経費の打ち切りが2年前にあった。ADR等で話をさせてもらっているが、支払う意思はないようで自己負担を2年間継続している。	林
12	相双	意見交換者	賠償ということで東電と直接話をすることだけでなく、ゆくゆくは地元材が使えるようになれば、また継続して阿武隈山地のシイタケ栽培が続けられるということなので、何かサポートがあればお願いしたい。	林
13	相双	意見交換者	かつては阿武隈山地は豊富な森林資源に囲まれ、しいたけ栽培も盛んであったが、今ではそれらを活用できない。	林
14	相双	意見交換者	震災から10年が経過するが、広葉樹の整備が進んでいない。長期間整備がなされず老齢化した広葉樹は更新ができなくなってしまう。	林
15	相双	意見交換者	何とか伐採をして広葉樹を発生させて更新することで、20年、30年後には福島県産阿武隈山系の広葉樹を使ってシイタケを栽培していきたいと思っているので、積極的な森林整備をお願いしたい。	林

16	相双	意見交換者	県行造林が放射性物質の影響で販売できない。今後はどのようにしていくのか。	林
17	内水面	意見交換者	内水面魚類における国の出荷制限指示について、引き続き解除申請の手続きをお願いしたい。	水
18	内水面	審議会委員	内水面では国の出荷制限指示により、未だ事業休止を余儀なくされている漁協が存在し、出荷制限が指示されていなくても風評被害や遊漁者の減少により経営に支障をきたしている漁協もある。国や県が風評対策をしっかりと行ってほしい。	水
19	海面	意見交換者	「もうかる」よりも、夢のあるスローガンが良い。緊急時モニタリングはしっかりやって欲しい(処理水問題もある)。	水
20	海面	意見交換者	ガレキ回収の予算を継続して欲しい。	水

(2) 多様な担い手の確保・育成

No	地域	発言者	意見等	区分
1	県中	意見交換者	後継者本人(息子)はいるが、次世代に繋げていくためにはお嫁さんが必要であり、現在は嫁不足を感じている。	共通
2	県中	意見交換者	定年退職後に就農される、ある種農業を繋いでくれる方に対する支援が必要ではないか。	共通
3	県中	意見交換者	担い手確保のためには収益性の高い経営基盤の整備が必要である。また、効率的な作業や体制の構築に女性の視点が活かされているので、女性が活躍できる体制整備が必要である。	共通
4	県北	意見交換者	行政は、都会から人を連れてくるのはうまい。定着・自立してからもアフターフォローが必要。	共通
5	県北	意見交換者	これまで、3人で1か月かかった林地測量関係業務がドローンの導入により4、5日で終わるようになった。地味なイメージからデジタル化を推進して若い人に目を向けてもらう手段としたい。	共通
6	南会津	意見交換者	60代、70代、80代の人材を活用し、活躍できると若い人も年上の人も頑張れると思う。こうした人材を活用し活躍できるシステムを進めてほしい。	共通
7	南会津	意見交換者	もうかることは一番重要だが、後継者育成、人材育成などの課題の部分も重要。	共通
8	相双	審議会委員	意欲とやりがいを持って、職業として選択されるような持続可能な農林水産業を目指していくことが必要。	共通
9	県中	意見交換者	担い手として儲かっている農業のモデルをアピールすることで、新規就農者がもっと増えてくるのではないかと思う。	農
10	県中	意見交換者	新規就農者の確保には、受け皿もしっかりしたものでなければならず、資料にもある「もうかる農業」を実践している企業や農業法人でなければ受け皿にはなり得ない。	農
11	県南	意見交換者	新規就農には初期投資のハードルが高いため、土地や機械を貸してもらえるマッチングのシステムが必要である。	農
12	相双	意見交換者	後継者が不足しており、農業を辞めるに辞められない。	農
13	相双	審議会委員	担い手の減少・高齢化が大きな課題。新規就農者を定着させるため、育成や研修を通してふるさとの誇りに思えるような農山漁村の魅力・役割を発揮し続けていくことが必要。	農
14	県中	意見交換者	新規就農では、ハウスを何棟、何反歩作って、〇〇を売れば収入はいくらで、生活していけますよ、というモデルケースを多く作り、そういう具体的なケースを示せばイメージしやすいと思う。	農
15	県中	意見交換者	農業は人付き合いができないとうまいかないので、その部分も含めて説明できるようなモデルケースを作っていただければ良いと思う。都市部の人にはその部分が伝わっていない場合もある。	農
16	県中	意見交換者	どの地域も人材の確保に苦勞しており、被災地域に限らず新規就農後の人、設備、資金に対する支援体制作りが必要だと感じている。	農

17	県中	意見交換者	農業専門の求人サイトへ求人を出したところ反応があった。IT環境の整備なども伴うと思うが、農業をやりたい方とどう繋がるか出来るかが課題だと思う。農業は常に忙しいわけではないので、スポット的に人が必要となる。	農
18	県中	意見交換者	高齢化が進み続ける中で、高齢者の雇用の必要性を感じる。就農フェアでは若年だけでなく定年間際の方の相談も多いため、定年後の受け皿となれる環境作りも必要ではないか。	農
19	県中	意見交換者	担い手の確保が最大の課題だと思う。息子はいるが、現在は果樹農家をやっていない。将来的に任せても良いと思っているが、農家は1人で出来る仕事ではないのでお嫁さんをもらって就農してほしい。(嫁不足を感じる。)	農
20	県中	審議会委員	嫁不足の問題について、新型コロナウイルス感染症の影響は福島にとっては逆風ではないかと感じている。福島はグループ交際でうまくいく地域性があるのか、何か作業をしながら仲良くなるという傾向がある。グリーン・ツーリズムなどは一石二鳥と言える。	農
21	県北	意見交換者	畜産への新規参入は、初期投資が多く非常に困難。後継ぎがいるところでないとできない。今後10年で県内数件程度になるのではといわれている。	農
22	県北	意見交換者	外から新規参入者が来てくれることが望ましいが、二本松市東和町のような地域の体制になっていない。	農
23	県北	意見交換者	就農支援では、親元就農に対する支援が必要。(齋藤さんのところのように)別の作物でないとダメというのは現実的ではない。	農
24	県北	審議会委員	新規就農に関しては、国とタイアップして支援をよろしくお願ひしたい。	農
25	南会津	意見交換者	子育て中の女性農業者が県の研修に参加する際、1年に1回、何年かに1回は南会津で開催してもらえると、多くの南会津の女性農業者が参加しやすい。	農
26	南会津	意見交換者	初期投資が大きい園芸に取り組むIターンや新規就農者に手厚い補助(金)をお願いしたい。	農
27	南会津	意見交換者	Iターンの人たちを受け入れる体制として、例えば県で空き家を借上げて整備して貸出すなど住宅確保の面で支援があれば、間接的だがもうかる農業に誘導することができるのではないか。	農
28	いわき	意見交換者	トマト農家から法人化により経営規模の拡大につなげることができた。	農
29	いわき	意見交換者	長期的に安定した経営をするため、トマトの地域ブランド化の推進が大事。いわき南部の親バカトマトに取り組む農家数を増やすため、土地幹旋などの取り組みが必要。	農
30	いわき	意見交換者	梨農家が安定経営できるための規模のモデルを示して欲しい。	農
31	いわき	意見交換者	梨農家の高齢化が著しい。農家の後継者が、忙しく働く親の姿を見て、後を継ぐ決断が出来ない事例が多い。	農
32	いわき	意見交換者	農福連携に興味を持っている方がチャレンジしやすいような環境をつくっていただいたり、もうかる農福連携の先進事例を勉強する機会があるとありがたい。	農
33	県南	意見交換者	兼業農家が地域農業を支えているが情報を得て今後を考える余裕がない。農家への情報提供が大事である。	農

34	県南	意見交換者	ほ場整備は進んだが農地の集積が進んでいない。所有者が喜んで集積に協力する施策が必要。もうかる農業にするため1法人が50～100haを基本として経営できる青写真を示してほしい。	農
35	県南	意見交換者	新規就農者確保のため、人とのつながりやコミュニティ、体験ツアー等により徐々に入れるような環境作りが必要。福島らしさがある県独自の施策を期待する。	農
36	県南	意見交換者	地区の中で後継者の育成をどうするか。個々の農家で後継者がいなくても地域としての後継者を育成する必要がある。	農
37	相双	意見交換者	住民の帰還が進まない中、遊休農地の管理が課題となっている。管理されていない農地が増えると鳥獣が増加してしまう。	農
38	相双	意見交換者	個人での営農では管理できる面積は限られるが、法人化することによって、管理面積を増やすことができる等のメリットがある。	農
39	相双	意見交換者	農機具業者との技術交流や新人研修の受入等により、お互いにアイデアを出しながらメリットを享受している。	農
40	相双	意見交換者	農業技術を使って今までなかったものをまず自分でやってみて、周りの人たちが簡単にまざってもらえるようなものをやろうと思っている。	農
41	相双	意見交換者	農業にはキツイ、汚い、もうからないと悪いイメージがある。目標を決めてきちんとした計画を立てれば稼ぐことができる。素晴らしい職業であるということを啓発していくことが重要。農業は新しい職業の選択肢の一つになるべきだと思う。	農
42	相双	意見交換者	一人での農業には限界がある。複数人がいたから続けることができている。	農
43	会津	意見交換者	(アスパラガス生産者)最初の1年目は、ハウス栽培では300万、400万とかかり、マイナススタートなので、県独自のアスパラ振興に向けた支援を考えていただきたい。	農
44	会津	意見交換者	(ほうれんそう生産者)集落に、高齢化で栽培を断念した方のハウスや井戸等の施設が残っているので、1ターンの方にその施設を貸し出せますよという情報を発信していただきたい。	農
45	会津	意見交換者	(酪農生産者)非農家出身の農業短大生の就職先として県の畜産に携われるような職種に就いてもらえるように導きをしていただきたい。	農
46	会津	意見交換者	(酪農生産者)後継者への支援金をもらうためには、親と息子で飼養管理を変えとか、チャレンジをしないといけないが、リスクが大きいので、後継者が頑張ることができるような支援や対策も考えていただきたい。	農
47	県北	意見交換者	林業関係の雇用体系が1年契約で日当制になっている。これでは若い人は来ない。作業班は100名いたが現在は60名。正規職員としての雇用が必要。新しいユニフォームも考えている。	林
48	県中	意見交換者	素材生産者も高齢化が進んでいる。若手の林業就業者も結構いるそうだが、長続きせず離職者も多い。労働環境が問題と思われるので何らかの支援策を検討いただきたい。	林
49	いわき	意見交換者	今まで事例がなかったが、磐城農業高校3年生が林業関係に就職内定した。今後も林業関係へ進めるよう就職支援をお願いしたい。	林
50	いわき	意見交換者	山林をもっと魅力ある職場として、担い手を増やしていくためには、あらゆる手段を使って山にお金を入れて、人を入れていく必要がある。	林

51	いわき	意見交換者	現在、チップ工場等は外国人の受入可能であるが、山林の現場作業も職種として受入可能となるよう要望する。	林
52	いわき	意見交換者	いわき、県南は林業・木材産業が盛んであるため、その一角である田人第二小学校跡地の旧校舎を活用し、県の林業研修施設が行う実務関係の受け皿となる企業がいわきにはたくさんある。	林
53	海面	意見交換者	「もうかる」に賛成。若手の漁業者の育成が最重要課題。	水
54	海面	意見交換者	担い手対策で、かつての補助事業(船舶免許等の取得への助成)を復活して欲しい。	水
55	海面	審議会委員	「もうかる」は分かりやすくて良い。担い手育成の予算(若手の洋上での研修)をお願いしたい。	水

(3) 生産基盤の確保・整備と試験研究の推進

No	地域	発言者	意見等	区分
1	県中	審議会委員	インフラの整備等も推進していくことが大切だと思う。	共通
2	県中	意見交換者	雇用の受け皿を作るためには基盤強化が必要だが、基盤整備事業の平均面積が小さいので、これからは1町歩クラスを標準化していかないといけない。逆に、そういう水田があれば誰でも参入しやすくなると思う。	農
3	県中	意見交換者	トラクター、田植え機、コンバイン等の自動化にあたっては、水田面積が広いほどメリットがある。良い機械であっても、大きな面積でなければ、人間がやった方が予算もかからないし効率が良い。	農
4	県中	意見交換者	水田の大規模化に向けて予算をつけてもらい、人・農地プランも絡めて基盤整備を入れ、法人や営農組織を作って儲かる経営を行えば、自然に人を呼べる体力が出来ると思う。	農
5	県中	意見交換者	都路地区の畜産振興を図るためには、繁殖・肥育一貫した生産基盤を整備することにより魅力ある畜産経営の実現と担い手の確保が図られると考えている。	農
6	県中	意見交換者	水田の大区画整備を実施し、次の世代が取り組みやすい基盤を整備することが大事だと思う。整備にあたっては、機械化することで若い人たちが興味を示してくれるのではないかと思う。	農
7	県中	意見交換者	オリジナル品種を作り、ブランド化して売り込むことに力を入れていきたい。地域を巻き込んでやっていきたいので、周囲の意見や実績等を見れる機会があれば良いと思う。	農
8	県中	意見交換者	福島県は他県に比べて育種が進んでいないと思うので、そこにもう少し予算をかけて、生産者にこういうものを作ってほしいと言うくらいになれば、生産者側も活力が湧いてくるのではないかと思う。	農
9	県北	意見交換者	牧草地として大規模の農地(水田)を借りたいが、あるのは5a、10a程度でトラクター等が入れない。トウモロコシを作りたいが、水はけ(湿害)の問題もある。	農
10	南会津	意見交換者	農地を荒らさないためにも土地改良事業、基盤整備事業は必要と感じる。整備が遅れているところは、担い手が出てこなくて次に繋ぐことができない。	農
11	南会津	意見交換者	ほ場整備事業の際、名義人が死去している共有地の処理が課題。国と県が制度を設けるなどして、登記の面で円滑に進める方法はないだろうか。	農
12	南会津	意見交換者	地区の用水路の底が隆起しているが、補修に係る地元負担額が大きく、不自由なままで生活している。補助率のアップをお願いしたい。	農
13	南会津	意見交換者	農村整備に関する予算のつき方があまりに悪いので、国にも要望してほしい。	農
14	いわき	意見交換者	いわき地方のほ場整備率がすごく低い。遊休農地の解消、コスト削減、新たな担い手などにつながるので、県に基盤整備、ほ場整備に積極的に関わって欲しい。	農
15	いわき	意見交換者	もうかる農業は稲作農家では難しいが、安定した経営をすることからもうかる農業につながるの、その基盤づくりをお願いしたい。	農
16	いわき	意見交換者	県果樹試験場における梨の新品種開発に期待する。栃木県の新品種「にっこり」の例を参考に、県が主体となって新品種を開発、独占栽培するよう希望する。	農

17	いわき	審議会委員	農林業の後継者不足は経営が出来ない、もうからないから耕作放棄地が増える。基盤整備により大型機械を入れてコストを下げていく必要がある。林業も同じで集約化が必要である。	農
18	県南	意見交換者	ほ場整備により大区画化を進め法人経営を行う必要がある。	農
19	県南	意見交換者	かんがい施設の維持管理が大きすぎて課題である。地域での管理は限界がある。	農
20	県南	意見交換者	農地所有者が農業に関心がないことに危機感ある。	農
21	相双	意見交換者	一つ一つのほ場が小さく農業用機械の性能が十分に発揮できない。基盤整備を早く進めてほしい。	農
22	相双	意見交換者	50年前ぐらいに一度区画整理をしたが、3反区画で小さく、農業をやらなくなるのは当たり前。区画が大きくなれば機械も効率よく入れる。区画整理は国の責任でやってもらいたい。農家にお金を出せといわれても出せない。	農
23	会津	意見交換者	(ほうれんそう生産者) 新規で建てるハウスには助成金が出るが、更新の際は出ない。施設が老朽化し、新たに1棟建ると50万ぐらいはかかるので、もう少し県で助成をしていただきたい。	農
24	会津	意見交換者	(かすみそう生産者) 新規就農等の意欲ある農家が収穫量を増やすためパイプハウスを増設したいと考えた時に、補助金制度を活用できるが、残った分は一括で払わないといけないため、なかなか増設できない。JAのリース事業では3/4をJAが負担し、残りを作付け2年目から6年かけて返済する制度があった。このような制度が行政にもあるとすごく助かるといった話を聞く。	農
25	会津	意見交換者	(かすみそう生産者) 長年やっている方から、パイプハウスを更新する際の補助金があったらすごく助かるといった話を聞く。	農
26	会津	意見交換者	(かすみそう生産者) 予冷庫が各戸にあったら少し余裕を持って出荷作業に取り組めるので、予冷庫への助成があったら嬉しい。	農
27	会津	意見交換者	(酪農生産者) 牧場と自宅が離れている若い女性の農家さんが畑での作業をされている時にトイレ等で困らないように、また、地域の教育ファームや学校の子供たちの受け入れをした時のためにも、衛生面での手洗い、トイレなどの補助があればいい。	農
28	会津	意見交換者	(酪農生産者) 堆肥舎に屋根をかけるという制度ができたが、堆肥はお日様に当たって、風にあたって、雨にあたって良い堆肥ができるのであって、その制度の緩和というのは難しいと思うが、もっと良い堆肥ができるような堆肥舎の補助があったら嬉しい。 また、雪国だと閉ざされている時期が長く、1頭当たりの堆肥舎の㎡数が補助事業の基準で限定されてしまうと、雪国では結局野積みになってしまうので、そういうところの支援があったらいい。	農
29	南会津	意見交換者	今植えた木は10年後では使い物にならない。林業分野では、数十年先を見据えた計画を立てていただきたい。	林
30	県南	意見交換者	ふくしま森林再生事業について、事業がなくなったとき、森林整備促進への影響を懸念している。	林
31	内水面	意見交換者	内水面の増養殖業者に対して、養殖機材や設備への支援(補助事業)がほしい。	水

(4) 需要を創出する流通・販売戦略の実践

No	地域	発言者	意見等	区分
1	海面	意見交換者	「もうかる」に違和感。「明るい」「豊かな」はどうか。加工技術を開発して欲しい(コロナで食料等を買に行けない人や、介護施設)。観光とのタイアップも必要。	共通
2	海面	意見交換者	私たちのアンケート調査では、放射能のある程度のリスクは、ほかのリスクと同じように変わらないから受け入れる、という意識の変化がみられる。また、高齢者をターゲットとした魚食普及も必要。	共通
3	県中	意見交換者	家庭で出来る料理教室をネット配信してはどうか。料理初心者も参加しやすいようにシンプルな料理から始める。県中のものを使えばこんなものが出来るので、直売所へどうぞという誘導が出来るのではないかな。	農
4	南会津	意見交換者	子供たちが農作業を体験した中で、農産物や地域の団体がつくった6次化商品を土産として手に取るよう連携して、我々の立場で農林水産業の振興に携わっていきたい。	農
5	いわき	意見交換者	もうかる農業のためには販売戦略が大事。県のふくしまプライド販売促進事業により新規顧客開拓のきっかけが出来た。IT販売戦略の支援も助かる。	農
6	いわき	意見交換者	いわき南部に道の駅をつくらうとしている勉強会が出来た。いわき南部の道の駅整備に協力いただきたい。	農
7	いわき	意見交換者	県産ワインをオリンピックやサミットなどで提供していただけるとPR効果があるので、是非そのような機会をつくっていただきたい。	農
8	いわき	審議会委員	中山間地でこそ、6次化できるような作物を推進して、生産、加工、販売により大量生産しなくてもある程度の経営が出来ることが大事。	農
9	県南	意見交換者	地場産品にこだわった6次化商品を開発。6次化は簡単ではなく、新規参入は大変。本業の生産にしっかり取り組み、売れる商品作りが必要である。	農
10	県南	意見交換者	6次化の取組は飲食店からの応援もあり拡大している。フィードバックが励みになる。マッチングの機会創出を要望。	農
11	会津	意見交換者	(流通・販売業者)行政やJAとの共同のイベントも開催していきたい。お互いどんどん企画提案し、一緒に会津地域の将来の農業を活性化していきたい。	農
12	県中	意見交換者	価格の安定化には安定供給が重要であり、伐採量の調整が必要だと思う。伐採届が出されると思うので、行政が伐採時期を調整し、安定的に伐採できればありがたい。	林
13	県中	意見交換者	コロナ禍で素材生産量が減少している。(住宅着工数の減少等による合板工場の減産)合板工場では杉材の受け入れをストップしており、カラマツも減少傾向にある。価格も低価格で、このままでは林家が意欲をなくしてしまう。	林
14	県中	意見交換者	戸建て住宅が減少傾向のため、非住宅建築に力を入れている。集成材、CLTのみならず、製材品(一般流通材)の活用が重要だと思うので、国産材を活用した施設に対する補助金の充実をお願いしたい。	林
15	南会津	意見交換者	県内の林業木材業を衰退させないために、地域の小規模な林業・木材業同士が連携した組織を各地域に増やしてほしい。	林
16	南会津	意見交換者	造林、伐採、運搬に関する補助金に対して、木材を消費する側の商品開発における支援が乏しいと思う。商品開発分野への支援をお願いしたい。	林

17	いわき	意見交換者	伐期を迎えた大径材が売れない、使えない現状にある。全国の神社の鳥居をコンクリート製や金属製から木製への切替える、さらには、設計者の養成、意識改革を行うなど、木造利用を増やす取組みを促進してほしい。	林
18	いわき	意見交換者	木質ペレット、製紙等の低質材ばかり需要が伸びている。伐出経費補助は必要だが、安定供給には建築資材A級材の需要に起因する素材生産を増やさないと間に合わない。	林
19	いわき	意見交換者	いわき市のタケノコ出荷制限について、14市町村が広域合併したために全域で制限されているが、旧市町村単位での出荷が可能となるよう要望する。	林
20	いわき	意見交換者	いわき市木材利用に関する促進条例を令和3年4月1日に施行予定。県といわき市の綿密な連携により、川上から川下まで連携強化を図っていただきたい。	林
21	相双	意見交換者	主たる業務の菌床のおが粉については全国展開していたが、震災後は県内のみでの販売となった。材料も県外の秋田、山形、岩手のものを使用している。放射能の数値というよりも消費者のニーズとして県産材は取引の対象とならない。	林
22	相双	意見交換者	浪江町に建設された集成材工場について地元材の搬入や利用が可能か不安がある。地産地消や風評とかも含めてどういう方向で進んでいくのか知りたい。	林
23	相双	意見交換者	木質バイオマスに関して、実際にどういったバイオマス施設をターゲットにしていくのか知りたい。	林
24	内水面	意見交換者	内水面では遊漁者のニーズに合わせた漁協の遊漁事業や中間育成業者の放流事業を展開していくために管理河川や河川釣り堀等の取組を推進してほしい。	水
25	海面	意見交換者	県の施設の食堂で県産水産物を使うようお願いしたい。	水
26	海面	意見交換者	いわきで「さかなの日」を設定。県でも連携または独自の取組をお願いしたい。	水

(5) 戦略的な生産活動の展開

No	地域	発言者	意見等	区分
1	県中	意見交換者	県の経営に関する勉強会に参加したことがあるが、簿記等の内容だったので思っていたものと違った。財務指導やどうやったらもうかるか(モデルケースの紹介)等を知りたい。実践者の悩みややり方を聞けたのは良かった。	共通
2	南会津	意見交換者	もうかる農業は必要。子供たちがもうかる農業をしている人の姿を見て、後継者が育つ。最初は補助をもらっても、経営が確立して納税でお返しするサイクルが必要だと思う。	共通
3	県中	意見交換者	始めたばかりの品目(そば)は、収穫から集荷、販売まで業者に任せており、交付金があっても機械代、刈取料などの支出であまり手元に残らないため、個人でも活用できるものがあれば良い。	農
4	県中	意見交換者	産地の視点からは大豆の品種格差・品質格差がなくなるように栽培技術の向上が重要だと感じているので支援いただきたい。	農
5	県中	意見交換者	県でもGAPのPRを推進しているが、うまく説明出来ない場面が散見される。どういう形でどんな文言でPRしていくのか、PRに生産者の立ち会いを求めるなど、方法の発展に注力する必要があると思う。	農
6	県北	意見交換者	モモは、せん孔細菌病で、品薄であったため単価が良かったが、全体的な手取りは変わっていない。ナシの黒星病、リンゴの黒星病が、今後福島県でも問題になるので対策を早めをお願いしたい。	農
7	いわき	意見交換者	福島県浜通りは米価が低く飼料米に取組みやすい環境にある。飼料米特区に指定して、県などの補助を受けるかわりに主食米を減らして飼料米に転換を進める。	農
8	いわき	意見交換者	FGAP認証取得により安全・安心な農作物を生産しているとのPRに役立っている。	農
9	いわき	意見交換者	垣根仕立て栽培しているワイン加工用ブドウが不作。雨よけ導入用の資材購入費へ補助があればありがたい。	農
10	いわき	意見交換者	近年、ブドウ栽培は病気のほか、カメムシ、スズメバチ、ハクビシン、イノシシ、ムクドリといった鳥獣被害が急増しており、普及員の指導・助言が必要。	農
11	相双	意見交換者	酪農家の廃業率は原発事故の影響などにより、震災以降、福島県が東北で1番高くなっている。省力化のためにロボット搾乳機をはじめとしたICT機器を導入している。	農
12	会津	意見交換者	(米生産者)新たに飼料用米をやる場合に、自ら資料を作ってかつ取引先まで探してくるという作業はなかなか難しい。複数年契約の加算も、複数年契約はできないという取引先もある。 また、飼料用品種を増やさないといけないので、その手間等を考えていくと、特に高齢の方々には手を引かざるを得なくなる。本当に拡大をねらうのであれば、もう少し制度の簡略化と、一般品種でも構わないという形にしてあげた方が、拡大していくのではないか。さらに、加工用米の制度が複雑すぎて手を出せなかったため、制度を簡略化してほしい。	農
13	会津	意見交換者	(酪農生産者)会津農林高生の職場体験、農業短大生の実習を受け入れているが、学校で学んだことがさらに実習で生かせるように、県でも酪農以外の肥育・繁殖農家のもとで黒い牛の実習ができるような受け皿を作っていただきたい。	農
14	県中	意見交換者	原発事故以降、県外から原木を購入せざるを得ない。阿武隈山地の原木は遠くからも買付にくるほど良質なものであるため、福島の木材でしいたけが作れるよう研究を継続して欲しい。	林
15	南会津	意見交換者	林業が衰退すれば農業が衰退し、地域全体が衰退すると思っている。森林の保存ではなく、森林の循環利用すなわち木を使いながら切っていく計画が必要と考える。	林

16	相双	意見交換者	震災前は特用林産物のキノコ栽培に使用するおが粉の製造と素材生産などの原木の流通をメインとしていた。震災後は風評と実害があり、森林整備をふくしま森林再生事業で雇用を維持している。	林
17	相双	意見交換者	原木仕入れの輸送コストが従来使用していた阿武隈高地のもの比べると、2～3倍となっており赤字となっているが、他のもので利益を出して補填しているというのが現状である。	林
18	相双	意見交換者	しいたけの栽培に使用するおが屑の原料が県産のものでない。他県産のおが屑を使用して作ったしいたけを福島県産とは胸を張って言えない。	林
19	会津	意見交換者	(林家、きのこ生産者)会津桐は品質、生産量とも日本一だといわれているが、日本各地に行き、加工され、姿をかえて一本当たり何百万とか何千万のものに化けてしまう。会津には生産して加工して、付加価値をつける技術が今までなかったが、今やるチャンスかなと思う。会津桐の振興を心からお願いしたい。	林
20	内水面	意見交換者	サケ増殖事業の課題として、施設整備が不完全な河川があり、復旧が進んでいない。サケ種苗の確保も全国的に困難である。	水
21	内水面	意見交換者	会津河川はダムにより分断され、アユの天然そ上が無いため、遊漁に関しては全て養殖魚の放流に頼っているが、今あるアユ種苗放流の補助事業を継続してほしい。	水
22	内水面	意見交換者	コイ養殖に対する風評被害対策として、漁業権が免許されているため池の底土測定など試験研究による安全性確認、情報発信の支援がほしい。	水
23	内水面	意見交換者	コイ養殖に関して、風評による価格低下によって採算が取れず、離職者が増えている。	水
24	海面	審議会委員	遊漁者による宇多川(松川浦)に遡上するサケの捕獲を制限してほしい。	水
25	海面	意見交換者	県全体で水揚を増やす必要がある(特にいわき)。	水
26	海面	意見交換者	養殖物の流通が増加。振興計画に「育てる漁業」を十分に盛り込んでほしい。	水
27	海面	意見交換者	いわきのサンマの伝統食、食文化が消えることを強く懸念。国に対し、資源を守る取組を早期に要請してほしい。	水
28	海面	意見交換者	他県海域での操業再開について、県の協力を得たい。	水

(6) 活力と魅力ある農山漁村の創生

No	地域	発言者	意見等	区分
1	県中	意見交換者	グリーン・ツーリズムは、都会の方に地域のことに知っていただく良い取組だと思うが、今は少し中断されているので、コロナ禍でも対策を講じながら進められると良いと思う。	共通
2	県中	意見交換者	グリーンパーク都路で「赤そば」の栽培をしているが、テレビや新聞で報道されると反響がすごく、多くの人が集まるため、景観なども地域資源と捉え積極的に情報発信していくことが重要だと思う。	共通
3	県中	意見交換者	グリーン・ツーリズムを約2年前からやっている。グリーン・ツーリズムを通して自分の地域のPRに力を入れていきたい。	共通
4	県北	意見交換者	これからは、教育旅行に力を入れたい。昨年、八王子から150人受け入れたが200人受け入れできるキャパが必要。以前は放射能が怖くて来なかったが、その理由は少なくなってきた。来るきっかけは、先生が福島県出身だった。	共通
5	南会津	意見交換者	(教育旅行は)農山村の生活体験をした子供たちが将来できれば南会津に移住してもらえるようなきっかけづくりと考えてる。	共通
6	県南	意見交換者	学校教育で農林水産業を教えるなど福島県ならではの意識醸成を図る必要がある。	共通
7	県中	意見交換者	6次化を推進するのも良いが、ゴールが曖昧。規格外の原料で作っているため、業者から注文が来ても生産量は増やせない。6次化を始めるなら質や最終的にどうしたいのか(利益、商談先等)を突き詰めてから始めるべき。	農
8	県中	意見交換者	母と6次化をやってきたが、母が高齢になり1人ではなかなか活動ができないため、同世代の仲間とグループを組んで、次世代に繋げていくことが必要と感じている。	農
9	県中	意見交換者	イノシシによる対応しきれないほどの食害が課題となっており、鳥獣被害対策支援が重要である。	農
10	県中	意見交換者	6次化について、多額の補助金を使ったものの軌道に乗せられず途中で終わるケースを色々聞くが、もっと補助金を出した後の報告や状況把握をしないといけないのではないかなと思う。	農
11	県北	意見交換者	道の駅(霊山)自体の来客は増えている。昨シーズンは、観光いちご園の入園料が他地域より、100~200円安かったので来客があった。ゴールデンウィーク以降は少ない。	農
12	南会津	意見交換者	農地の多面的機能の重要性を住民にしっかりと認識してもらえるような働きかけが必要と感じる。	農
13	南会津	意見交換者	南会津西部の豪雪地帯で農業を営む人たちは、農業収入だけでは生活が厳しく、Iターン者も含めみんなで農業以外の収入について考えている。厳しい環境の現状に目を向けて、一緒に考えていただきたい。	農
14	南会津	意見交換者	現在の多面的機能支払いの補助金だけでは、田代山から流入する水路の土砂を取り除くのに地元住人の負担が大きく、お金も足りない現状にある。	農
15	相双	意見交換者	電気柵を設置していてもイノシシやサルへの侵入が抑えられない。鳥獣害対策を強化してほしい。	農
16	相双	意見交換者	山間部では鳥獣と共同で生活しているような状態で、鳥獣害対策を施したほ場でもか作物を栽培できない。	農

17	相双	意見交換者	堆肥を活用し、双葉郡の平場の農産物の生産による耕畜連携ができれば土地の再生にもつながっていく。	農
18	県中	意見交換者	森林整備をしてアウトドア施設を作れば健康増進にも役立ち、近くにバーベキュー場等もあれば、1日居れて体力作りも出来る。また、インフルエンサーにその様子をネットで配信してもらえば良いのでは。	林
19	県南	意見交換者	市町村が森林管理を委ねられても林務担当はおらず対応は難しい。民有林の管理ができなくなるのではと考えている。	林
20	いわき	意見交換者	森林を活かした自然体験、環境教育、木育、森育が将来の森林・林業の発展に重要であるため、森林環境税を活用するなどして教育施設整備を支援してほしい。	林
21	いわき	意見交換者	欧州、特にドイツの森林官(フォレスター)を参考に、日本の国土や森林を総合的・計画的に管理することを国家の高いレベルに位置付ける必要がある。	林
22	内水面	意見交換者	カワウ対策について、これまでの取組の効果が感じられない。カワウによる被害対策を継続し、適正な状態にしてほしい。	水
23	内水面	意見交換者	地元の観光業(商工会、観光協会、旅館組合等)や観光資源とタイアップして、内水面の遊漁や環境教育ツアーなどの取組を実施し、県外者の消費を促進するべき。	水
24	内水面	審議会委員	内水面漁協は地元の観光産業との連携や子どもたちへの環境教育といった多面的な機能を持つため、経営体というよりは多面的な機能を有する環境保護団体という視点で国や県で支援してほしい。	水

(7) その他

No	地域	発言者	意見等	区分
1	県中	意見交換者	福島県は魅力のPRが下手だと感じている。一生懸命やっているのはわかるが、周りの足並みを見ているような感じがするので、就農希望者に向けたPRも積極的に打ち出してほしい。	共通
2	県北	意見交換者	儲かれば、人を雇える。休みも取れる。家族経営だけではできない部分も対応できる。総合的にうまくいくようになるのでは。	共通
3	県北	意見交換者	どうしたらよいのか振興策を明確にする必要がある。	共通
4	県北	意見交換者	若い世代は、サラリーマン的な考え方もある。やるしかない。	共通
5	県北	意見交換者	目が行くようにするのがスローガンなので素晴らしい。	共通
6	県北	審議会委員	もうかる農業については賛成いただいたが、審議会ではいろいろな意見が出た。農業は聖職でなく経営だ。そうやって引っ張っていかねばならない。	共通
7	南会津	意見交換者	「もうかる農業」の表現より、もうかるだけではなく、他の仕事よりも農業でよかったと思えるようなスローガンがいいと思う。	共通
8	南会津	審議会委員	「もうかる」は悪い言葉ではないと思う。「もうかる」は、みんなの力を合わせてもうかる土壌をつくらう、それをみんなでやるぞ、という福島県の気持ちだと個人的には思っている。	共通
9	県南	意見交換者	福島の独自色を出した計画として欲しい。	共通
10	県南	意見交換者	施策的な裏付けを持って県の10年後の姿として「もうかる農業」を前面に出すことに賛同。	共通
11	県南	意見交換者	産業、職業としてももうかる必要がある。積極的に発信すべき。	共通
12	県南	意見交換者	「もうかる」にはポジティブ、ネガティブの二面性があり、山間部でもうからなくても従事している人もいる。「安定した」など二面性のない表現の方が良いのではないかな。	共通
13	県南	意見交換者	「もうかる」はわかりやすい表現で良い。	共通
14	相双	意見交換者	スローガンの「もうかる」は露骨すぎる。継続、持続可能などが良いのではないかな。	共通
15	相双	意見交換者	「もうかる」は露骨すぎるということもあるが分かりやすい。そのままでもよいと思う。	共通
16	相双	意見交換者	これからの農業は各個人では生き残れない。「もうかる」は当然のことであり、しっかりとした経営をしていくことが大事になる。したがって、「もうかる」はあってもよい	共通

17	県中	意見交換者	都路町で、畜舎や堆舎に木材を使うと、補助金が使えそうな体制があれば良いと思う。	農
18	県北	意見交換者	スローガン(県北地方版)に畜産を入れてもらいたいが、現状からは・・・。	農
19	県北	意見交換者	良いと思う。畜産は365日休みがない。儲かれば酪農ヘルパーをお願いすることもでき、休みも取れるようになる。「もうかる」さらに「休める」経営が理想。	農
20	南会津	審議会委員	若者が職業として農業を選択するためにはどうすべきか。そこが重要。若い人たちをどうやって呼ぶかが課題の共通点だと思う。10年先を見越したとき、「福島で働きたい。」となるためにどうつくっていくか皆さんと考えていきたい。	農
21	いわき	意見交換者	県ハイテクプラザでは高品質の日本酒醸造に貢献しているが、ワイン醸造の研究、指導に取組んでいただけるよう要望する。	農
22	県南	意見交換者	米価が下がってもうからなくなる。自ら販売を手がけることや6次化で付加価値を付ける必要。どうやってもうけるか誇れるふるさとにできるか隣接の同じ組織・団体と議論できる環境作りをする必要がある。	農
23	県南	意見交換者	働いて楽しい農業をやりたい。売れる6次化、もうかることが大事。	農
24	相双	意見交換者	イノシシなどが出てハウスを壊されたりしており鳥獣被害が出ている。	農
25	相双	意見交換者	4年に1度程度台風の被害があり苦慮している。	農
26	相双	意見交換者	農機具の買い替えのため、農業経営基盤強化促進法の積立金制度を活用するとよいと考えているが、制度の宣伝がなされていない。同様に、コロナ関係で小作料を支払うための補助金もあるがあまり知られていないので、どんどん宣伝した方が良い。	農
27	いわき	意見交換者	SDGsの目標年が2030年で新しい福島県農林水産業振興計画と同じである。SDGsのように大きな観点から持続可能な森林・林業の施策を進める計画として欲しい。	林
28	県中	意見交換者	公共施設の木造化推進を積極的にお願したい。福島県は森林県ながら、平成30年の木造率も全体で14.3%、県の施設1.1%、市町村の施設12.1%、民間施設で34.9%の状況で、東北地区では最下位。	林
29	県中	意見交換者	おもちゃの美術館のような、県民に対して木の良さを理解して親しんでもらう施設の整備が必要ではないか。そこで森林の大切さなども県民にPR出来たら良いと思う。	林
30	県中	意見交換者	緑の少年団の活動支援のような、もっと子どもたちが活発に活動できるような支援策があれば良いと思う。	林

31	県中	意見交換者	林業研究センターの活動のPRについて、年1回の林業祭だけでなく、林業センターの研究内容を県民に知らせる何らかの方法を検討いただければありがたい。	林
32	県中	意見交換者	林業研究センターの研究員の方の在任期間が非常に短い。研究機関なので研究に没頭・専念して成果を上げられるくらいの期間の在任が出来るよう検討いただければありがたい。	林
33	いわき	意見交換者	木造住宅ならではの安らぎのみならず、カーボンニュートラルにより地球温暖化防止に大きく貢献するなど建築用材として木材を使う意味合いを強くPRすべき。	林
34	内水面	意見交換者	河川における漁業権免許として、1河川1漁業協同組合という原則を緩和し、市町村ごとに分けるべき。	水
35	内水面	審議会委員	新型コロナウイルスの影響で河川における魚のつかみ取り大会などのイベントが中止しており、この状況下でもできる取組を模索してほしい。	水